

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190300065		
法人名	社会福祉法人中部福祉		
事業所名	倉吉グループホームあずま園		
所在地	鳥取県倉吉市東巖城町472番地		
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&Ji_gyosyoCd=3190300065-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和3年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出・人との交流が行うことが難しい中ではありますが、『共に出来ること・お手伝いできること』を模索しながら日々支援にあたっています。利用者様の負担にならない範囲内で、毎月イベントを開催し、楽しんでいただいています。
医療面では協力医の訪問が定期的にあります。利用者の急変時に素早く対応でき、利用者・家族様には強い味方になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の暮らしの中にも楽しみが見つけられるように、ゆったりとしたそれぞれの方々に合わせてスケジュールで職員と共に四季の飾り付けをされたり、コロナ禍の中でも工夫を凝らし、ホームのウッドデッキでお弁当を食べられたり、焼き芋大会など様々な楽しい行事も行われています。
毎月のユニット会議では職員間の情報共有を行い、サービスの標準化ができるように話し合い確認をされています。
利用者の重度化した場合における対応に係る指針もあり、看取りに対する姿勢が確立されており、利用者の終の棲家としての体制が整えられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1度の職員会議の際、全員で理念唱和を行い、理念がいつでも確認できる様壁に掲げている。	理念については、開設時に職員も一緒に考えた理念となっており、毎月の職員会議で唱和が行なわれています。掲示も行われています。次年度に向け理念の見直しを検討される予定です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により地域との繋がりが薄れつつあるのが現状。しかし、リモートにより松江とのリモート学園祭に参加させていただきました。	開設来地域との交流を積極的に深めておられましたが、コロナ対策の為、現在中断されています。現在もホーム周辺の散歩は続けておられ、地域の方と挨拶を交わされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により地域への繋がりが薄れ、認知症へ理解を深めていただく事がお伝えしにくくなっているのが現状。今後はリモート等を今以上に活用し『認知症とは』を発信していきたいと思えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催で事業所の取り組み・サービスなどの現状報告しています。参加者に助言を頂き、サービス向上に努めている。コロナの影響により開催できない時は書面にて報告している。	2ヶ月に1回開催されていましたが、コロナの状況によっては書面による報告が行われており、参加者より書面で意見等を頂かれています。リアル開催時同様にサービス向上につなげておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍ではあるが、倉吉市の相談員と利用者様・職員とはオンラインを利用し面会・相談をし助言を頂きサービス向上に努めている。	日頃から行政とは密に連絡を取り、今は電話連絡が中心ですが地域包括センターとの連絡も取り合っておられます。倉吉市の介護相談員に、利用者・職員と面談して頂きアドバイス等をおられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度のユニット会議において検討を行ったりしている。正しい知識を持つことで身体拘束のない施設を目指しています。	法人の身体拘束廃止委員会にも参加されており、内容については、ホームに於いても周知されている。毎月のユニット会議に於いても身体拘束について検討が行ない、身体拘束しないケアを心掛けておられます。日々職員間でも確認されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や、職員会議等の内部研修に参加し、防止に努めている。不適切なケアについても見過ごされる事のないよう、日頃より職員間で声の掛け合いをするよう心掛けている。	虐待についての外部研修に参加や職員会議での内部研修で職員は理解し、防止に努めておられ、日々職員間でも確認されています。職員一人ひとりが年に1回虐待チェックシートを使い確認されています。	令和3年度介護報酬改定で示されている虐待防止委員会の設置、指針の設定等行なわれる事を望みます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく、学習する必要があるのが現状。外部研修はもとより、職員会議又はユニット会議にでも学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までにご家族を含め、面談で十分な説明を行い、同意を得る様にしています。質問等があれば納得していただけるまで丁寧に答える様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍前は、面会時に家族との会話を連絡ノートに記入し、職員間情報で共有していた。コロナ禍では定期的に御家族へ電話をし、現状報告・家族様のご意見を伺っている。	運営推進会議に家族も参加して頂き、意見等を伺っておられます。また、面会時の折等に直接意見・要望を聞いておられます。お会いしにくい家族には、電話等で確認されています。コロナ禍に於いては、ちよく性津お会いする機会が制限されていた為、電話連絡を細やかに言い状況報告や意見を伺うようにされていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議やユニット会議で職員の意見や提案を取り入れている。	毎月の職員会議やユニット会議に於いて、法人やホーム対しての意見や提案を話す機会も設けられています。職員面談の機会も設けられています。管理者は法人の会議にも出席し、意見・要望を伝えておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境が整えてある。希望など、傾聴されている。	職員面談を行い、就業状況の要望等の聞き取りが行なわれており、法人として働きやすい職場環境作りに努めておられます。また、管理者は風通しの良い職場作りに努めておられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で内部研修を行っている。適切な知識を導入する為に外部の研修に参加している。	職員面談等でも職員の希望を聞き、法人全体の研修やホーム内での内部研修等が行なわれています。必要に応じてOJTも行われています。コロナ禍に於いては、オンライン研修が中心となっています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々それぞれ内部・外部の研修に参加している。コロナ禍ゆえに同業者と関わりをもつ機会が少なくなっているが、リモートを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談をしていて、ご本人の生活歴やこれからの要望や思いなどを出来るだけ聞き取るようにしている。そして言葉にならない気持ちを察していけるように傾聴するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になり、困っている事・不安なこと・問題になっている事などを明確にした上で信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の立場で、まず困難と思われる事象や不安を聞き取り、どうしたらよいかを一緒に考えて要望に沿えるように関係作りをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の人としてその人を認め、また自身も受け入れて頂ける様、誠心誠意愛情を持った関わりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人及び家族と良い関係を保てる様、支援しています。遠近問わず、毎月写真入りのお手紙で日々の様子がわかるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を徹底し、個々のお墓参りや自宅近所をドライブしている。 又、昔の思い出話などをし、コロナ禍で関係性が薄れない様に努めている。	コロナ禍に於いても、馴染みの人や場との関係性が薄れないよう工夫をし、昔話等して頂き回想法に繋げる努力が行なわれています。お墓参りや自宅付近へのドライブや手紙を書く等行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、スタッフが間に入り関係を取り持つ事が出来る様支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	色々な理由で過去退去された後も相談があれば対応したり、次の支援先の関係者とも必要な相談や支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人寄り添う時間を持ち、傾聴している。無理強いなどせず、スケジュール管理をせず、御本人に合わせた支援を提供している。小さな事でも情報共有出来るようユニット内にノートを置いたり、申し送りノートを活用しています。	日常的に、一人ひとり寄り添う形で希望・要望を聞いておられます。聞き取った情報は、各ユニットで情報共有を行い活用しておられます。表出が難しい場合には、家族の方や生活歴から本人の気持ちを汲み取るようにされています。	利用者本人の希望・要望が生きる目標に繋がれると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中のフェイスシートを利用し、これまでの生活歴や暮らし方の情報を家族から得ることで、ご利用者をさらに身近な存在として接することが出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から現状の把握に努め、申し送り・連絡ノートで情報共有を実施しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット内での会議や話し合いを定期的に行い、利用者様にとって一番良い介護計画を作成するよう努めている。	毎月のユニット会議でモニタリングを行いながら、利用者一人ひとりの状況を確認し、部屋担当を中心に6ヶ月に1回評価・見直しの素案が作成され、計画作成担当者を中心に多職種でサービス担当者会議を開催し介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々様子観察をし、記録に残し情報共有を行っている。記録以外にも、連絡ノートを活用して職員間連絡を密にとり、情報共有を行っている。	ポイントを押さえ、記録をしっかりと残すよう計画作成担当者は職員に伝えておられ、評価・見直しに活かされています。連絡ノートも活用して、職員間で情報共有を行い、ケアの統一化を図られています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に臨機応変に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の学びが足りなくうまく活用出来ていないのが現状。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療機関で適切な治療して頂ける様努めている。 体調変化があった時は家族に連絡しかかりつけ医との連携は取れている。	利用者・家族等の希望するかかりつけ医とされています。殆どの方が2週間に一度往診に来て下さる協力医をかかりつけ医とされています。他科受診の際は家族同行受診とされており、精神科については、日頃の様子が分かっている看護師が職員が同行されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職には日々の気付き・様子を細かく報告・相談を行い、医療面での適切なアドバイスをもらい、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院している病院の地域連携室と連絡をとり、退院にあたっての情報交換を行うようにしています。 家族や病院との連携は密にとれている。	入退院時には地域連携室と連携を取り、カンファレンス等を行い、情報交換を行いスムーズな入退院が行なわれています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に必ず行っています。 体調変化があった時は家族様に相談をし、時には主治医を交え話し合いを重ねる事もあります。	重度化・終末期における対応に係る指針があり、入所時に説明し、同意を頂いております。実際重度化・終末期を迎えた際には、改めて主治医、ホーム、家族で今後の方向性について話し合われます。職員に対しての看取り研修も行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万が一に備えて日々訓練を重ねる必要性がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消火訓練・通報訓練を行っています。夜間想定も実施されています。	年2回避難訓練・消火訓練・通報訓練等を実施し、内1回は消防署の立ち会いで行われます。備蓄は3日分の準備されています。現在管理者会で、自然災害・新型コロナ感染症それぞれの事業継続計画(BCP)を作成中です。	早期の事業継続計画(BCP)作成に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	仲良くなりすぎないようにし、プライバシーを確保している。	接遇研修も定期的に行われています。ユニット会議の際には利用者のエンパワメントを活かした声掛けとなるよう情報共有をされ、利用者の人格を尊重した対応となるよう丁寧な声掛けを心掛けておられます。利用者のプライバシー保護にも注意されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを多くとりながらご利用者が何を望んでおられるかを察して、選択できるような環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員都合にならない様に、一人ひとりの生活パターンを把握し、その日の天候や体調を考慮して、希望に沿えるような過ごし方が出来る様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参されている衣類の中から季節・体調にあったものを提示し、ご自身で着たい物を選んでいただいています。汚れやほころびのない様に注意を払っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜や果物の下ごしらえや調理を利用者様・職員と一緒に楽しみながら行っている。	食事の準備や後片付け等、一人ひとりが出来る範囲で職員と共に手伝って頂かれます。行事食や誕生日リクエストメニューも取り入れたり、みんなでウッドデッキでお弁当を楽しまれる機会もあります。おやつ作りも利用者の方と一緒に作り、楽しめる事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調に合わせて減塩や甘さを抑えたりしています。食事が進まない方には栄養補助食品などを利用し、栄養バランスに努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行っています。就寝時には必ず義歯を外し、消毒を行っています。歯ブラシ・スポンジブラシ・マウスウォッシュ等を利用し口腔内の清潔保持に努めています。	毎食後には口腔ケアの声掛けが行なわれており、必要な方には、仕上げ磨きや義歯洗浄が行なわれており、口腔内の清潔が保たれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々職員間で情報共有し、相談を重ね、個々に合わせた方法で支援しています。	排泄チェック表を使いながら、排泄リズムを把握して、職員間で情報共有を行い、一人ひとりに合わせ、必要な方には声掛け、トイレ誘導等行なわれています。自立した排泄の維持になる支援に繋がられるよう、職員間で話し合い行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策は難しいが、利用者様の苦痛にならない様努めている。出来れば、下剤を頼りすぎないようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の状況・体調・気持ちに合わせてながら無理強いしないように努めている。	利用者の希望や体調に合わせて週2回以上の入浴を楽しんで頂かれています。本人の気分がのらない場合には、時間をずらしたり、担当者を変更する等し入浴して頂ける様にしておられます。同性介助にも対応されます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂ける様、温度・明るさ管理をしています。眠れない日には落ち着かれるまでリビングで付き添い・見守りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬説明書がすぐに確認できるようユニット内にファイルしてあります。お薬説明は常に最新の物に更新し、利用者様の状態把握に努めています。わからないことがあればすぐに主治医・看護師に確認をしています。	利用者一人ひとりの薬の管理や種類、効能等についてもユニット内にファイリングされています。服薬後の変化等についても確認され記録されています。異変や分からない事があれば、主治医や看護職員に確認しておられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	決して無理強いせず、個々の出来る力を活かして役割を持って頂いている。又、やりたい事・やってみたい事等を聞いて提供したり、一緒に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が難しい時もあった。外出できたとしてもなるべく密集にならないようあずま園のみで外出している。	コロナ対策の為、外出しにくい時期もありましたが、状況を確認しながら、ドライブを兼ねた紅葉見物に出かけられました。日常的には、四季の移ろいを感じて頂ける様ホーム周辺の散歩や、天気の良い日にホーム玄関等でお茶等も楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の物品購入の時は施設側が立て替えて購入。 現金の所持についてはご本人納得の上で施設が管理している方と、ご本人が管理されている場合があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時は自由に電話をかけていただいています。 直接自分で電話番号を押し、『電話をした』という実感を持たれる方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・室内の明るさには気を配っています。 四季を感じる事が出来るよう、季節に合わせた展示物・花を飾っています。	室温、調光にも気を付けながら、清潔な空間になるよう心掛けておられます。換気も定期的に行なわれています。季節に合わせた飾り付けを利用者と一緒に行い季節感を感じて頂いています。また、季節の花も飾られおり、ゆっくり出来る空間作りが行なわれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内の様々なところにソファが置いてあり、散歩や話を出来る空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みのあるものや好みの物を持っていただき、落ち着ける空間作りをしています。	洗面台とベッドは備え付けですが、自宅に近い環境で生活して頂く為に、自宅で使い慣れた家具や馴染みの物や写真などを持ち込んで頂いています。身体の状態に合わせた動線の確保を行い、ベッドの位置も調整し過ごしやすい空間作りをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は完全バリアフリーで、手摺り完備。 トイレの照明はセンサーで点灯するようになっており、安心安全な生活が出来るよう配慮しています。		